

# 中古と中世のサ変動詞

——『源氏物語』と『平家物語』を中心として——

武 山 隆 昭

## 1 はじめに

先に近藤政美愛知県立大教授らと共編で『平家物語〈高野本〉語彙用例総索引<sup>(注1)</sup>』を作成した時、日頃中古文学と中古語彙を扱っている筆者は、軍記物語という特殊性はあるにせよ中世語が中古語と非常に大きく違うことに驚かされた。更に『付属語篇』の付録として、『自立語篇』で見出し語とした複合語の「後部要素(下位語)」の索引を掲載するべく担当し作成した際には、特に複合サ変動詞に『源氏物語』と『平家物語』との違いが大きくあるように感じた。

サ行変格活用動詞(以下サ変と略称)「す」は、単独で用いられる他、種々の単語(複合語・連語)に付いて複合サ変動詞を作る極めて造語力の強い語である。現代でも、「タバコする、ゲットする、こむろする、ブッチする」などと新語が次々生まれているのは周知の事実である。しかも、「す(する)」の前にくる語は時代の特徴を敏感に反映させているようである。旧世代が新世代の言葉を非難したくなるのは、現代も清少納言の平安時代も変わりはない…言葉が変化するものであるかぎり。こうした観点から本稿では、複合サ変動詞の中古・中世の違いを考察することにより、中古語彙・中世語彙の変遷の歴史をたどる一つの手懸かりとしたい。

まず、サ変動詞使用の状況を概観するために、宮島達夫編『古典対照

語い表<sup>(注2)</sup>によって古典12作品別のサ変動詞を見ることにする。それに、岩波新古典大系の底本『高野本平家物語』を加えた13作品の使用状況を、異なり語数・延べ語数に分けて一覧できるようにしたのが「表Ⅰ」である。

この表Ⅰから判明することを簡条書きにする。

- ① 異なり語数では、作品ごとのサ変動詞数を総数で割った、サ変動詞の全体に対する割合（パーミルで示す）が、性質の異なる万葉集を除いても3.0から46.0まで大きな違いがあり、サ変動詞がその作品の表現の特質を表す大きな要素になっていることがわかった。
- ② 異なり語数ではサ変動詞の占める割合が第1位の平家物語が、延べ語数では万葉集（一つだけ歌集なので比較できない）に次いで最下位から2番目であった。これは『平家物語』が、ボキャブラリーが豊富で、表現が豊かであることを示している。と同時に、平安末から鎌倉初期という国語の変革期に、造語力の強い「サ変動詞」がたくさん造られ用いられたことを窺わせる数値だと思われる。
- ③ 異なり語数では、サ変動詞の占める割合が高いのは男性の作である。（女性になりました土佐日記は男性の作でも例外）  
これは、後述のように、和語に付く複合サ変動詞よりも漢語に付く複合サ変動詞のほうが多いという事実の反映であろう。
- ④ 延べ語数では、蜻蛉日記が断然高いのと万葉・平家のほかは、ほぼ20から27パーミルまでにおさまっており、特に特徴は見出し得ない。蜻蛉日記のサ変の割合が高い理由はわからない。万葉集が低いのは、和歌という定型表現ゆえ当然である。平家が低いのは、長編ゆえ総語数（分母）が多いことと、同一語が何度も出てくることが少ないことによる。  
（例えば、『源氏物語』では「ものす」525、「ここちす」491のように同じ語が五百回も出てくるのに対し、『平家物語』では「ぐす」67、「こ

表Ⅰ、古典13作品のサ変動詞語数

	万	竹	伊	土	蜻	枕	源	紫	更	大	方	徒	平	計*
サ変動詞異語	2	14	6	3	24	49	91	18	17	48	10	51	(575)	186
異なり語彙数	6505	1312	1692	984	3598	5246	11421	2468	1950	4819	1148	4240	(12493)	23877
割合(パーミル)	0.3	10.7	3.5	3.0	6.7	9.3	8.0	7.3	8.7	10.0	8.7	12.0	(46.0)	7.8
サ変動詞延語	634	127	138	68	776	826	4195	181	154	643	59	469	(2573)	8582
延べ語彙数	50070	5124	6931	3496	22398	32905	207792	8737	7243	29212	2527	17112	(166552)	415517
割合(パーミル)	12.7	24.8	19.9	19.5	34.6	25.1	20.2	20.7	21.3	22.0	23.3	27.4	(15.5)	20.7

備考：『古典対照語い表』(フロッピー版)の統計表からスペースの関係で古今集と後撰集を除いた。計\*は、古今・後撰を加えたもの。『高野本平家物語』は「計\*」に入っていないので( )内に入れた。

略号：万＝万葉集、竹＝竹取物語、伊＝伊勢物語、土＝土佐日記、蜻＝蜻蛉日記、枕＝枕草子、源＝源氏物語、紫＝紫式部日記、更＝更級日記、大＝大鏡、方＝方丈記、徒＝徒然草、平＝平家物語<高野本>。

表Ⅱ、古典4作品の複合サ変動詞種類別統計

(「す」の単独用法は入れてない)

		1 類	2 類	3 類	4 類	5 類	6 類	計
『枕草子』	異なり数	38	37	2	86	29	0	192
	延べ語数	124	85	2	135	47	0	585
『源氏物語』	異なり数	49	65	1	116	34	3	268
	延べ語数	290	457	1	1032*	594*	25	2399
『平家物語』	異なり数	119	312	7	102	29	4	573
	延べ語数	546	866	8	232	126	8	1786
『徒然草』	異なり数	44	52	0	36	7	0	139
	延べ語数	100	68	0	63	17	0	248

備考：1 類＝一語の漢語＋す、2 類＝二語の漢語＋す、3 類＝三語以上の漢語＋す、4 類＝和語＋す、5 類＝混種語＋す、6 類＝連語＋す

\*印の『源氏物語』4 類は「ものす」525例、5 類は「心地す」491例を含む。

らんず」53がベスト2である)

- ⑤ 以上から、注目すべきは延べ語数よりも異なり語数の方ということになる。

そこで本稿では、中古から『枕草子』『源氏物語』、中世から『平家物語』『徒然草』を採り上げ、「す」の上位語（複合サ変動詞の「す」の前の部分）を比較することにより考察を進める。用例の検索は次に示す語彙総索引によった。

『枕草子』……松村博司監修武山他編『枕草子総索引』（昭和42年、右文書院）（底本：三卷本系岩瀬文庫本）

『源氏物語』……池田亀鑑編『源氏物語大成巻四（索引篇）』（昭和31年、中央公論社）（底本：表紙本系大島本など）

『平家物語』……近藤・武山他編『平家物語〈高野本〉語彙用例総索引』（平成8年、勉誠社）

『徒然草』……時枝誠記編『徒然草総索引』（昭和30年、至文堂）（底本：十行古活字本）

本文も各総索引の依拠テキストによったため、校本などで他の本文を参照することはしていない。

## 2 四作品の複合サ変動詞

単独の用法を除き、複合語としての用法を採り上げて考察する。前頁下段の「表Ⅱ」は、前記総索引によって本文で確かめながら、四作品を同一の基準<sup>(注3)</sup>によって複合サ変動詞を抜き出し集計したものである。『古典対照語い表』とは少し異なる基準となったため表Ⅰとは数値が異なるが、以後の考察はこの数値によることとする。

まず表Ⅱでは、『枕草子』『源氏物語』『徒然草』ともに表Ⅰに比べ異なり語数が大幅に増えていることに気づく。これは複合語認定の基準の相違によるわけで、主として「和語＋す」の形が増加している。また、延

べ語数が4作品とも表Ⅰより少ないのは、表Ⅱでは単独の「す」をカウントしてないからである。

表Ⅱから判明することを簡条書きにする。

\*異なり語数について

- ① 1類「1字の漢語+す」から3類「3字以上の漢語+す」は、漢語に「す」の付いた語形である。1～3類を合計して比べてみると、  
『枕草子』=77 (40.1%) 『源氏物語』=116 (43.4%) 『平家物語』  
=439 (76.2%) 『徒然草』=96 (69.1%) となる。

( ) 内はそれぞれの作品の計で割ったもの)

この数値の意味するところを考察すると、まず『源氏物語』において漢語系のサ変動詞の割合が低いのは逆に言えば和語系の割合が高いことを意味し、このことは紫式部の作家としての特質をよく表していると言えよう。すなわち、日記に自ら「一といふ文字をだに書きわたしはべらず」と書いた姿勢、言い換えれば「女の書く仮名文学の用語は、和語を中心とするべきで、一般化した漢語はともかく新しく漢語に「す」を付けて造語するようなことは極力避けるべきだ」といった考えの表れたものと思われる。

『枕草子』が40.1%で『源氏物語』とほぼ同じ割合となっているのは、清少納言が漢才を惜しげもなく披露して男性貴族を手玉に取り「一本とる」ことを喜びとしていたような女性であるにしては意外であった。やはり、中古・中世の差の方が個人差より大きいということなのであろう。

『平家物語』よりも『徒然草』のほうが7%ほど漢語の割合が少ない(和語が多い)のは、兼好法師が王朝懷古趣味の持ち主で平安朝の随筆めかした文体で書いていることの一つの証左であると言えよう。

しかし、時代の流れの趨勢としては、漢語に「す」を付けた複合サ変動詞の割合が「和語+す」よりも増えていくわけで、『源氏』から『平家』へという数値の流れ(43%→76%)が基本であったことは言うま

でもない。

- ② 4類「和語＋す」は、枕＝44.8%、源＝46.4%、平＝17.7%、徒＝25.9%となり、中古・中世の差の多さが際だつ。
- ③ 5類「混種語＋す」は、枕＝15.1%、源＝12.7%、平＝5.2%、徒＝5.0%で、中世になると減少する傾向が見られる。
- ④ 6類の連語は、源＝「せむかたなし」、平＝「かくして」、源平＝「ちゅうばつせられ」「ともすれば」「ややもすれば」の5語である。
- ⑤ 「一字の漢語＋す」の語形は、平安時代までにそのほとんどの語が表れたが、「まなぶ」→「学す」、「さだむ」→「決す」のように平安時代末から中世にかけて和語の代わりに新しく造語されたものもある。しかし、全体としては、中世以降に造語されたサ変動詞は「二字以上の漢語＋す」の語形がほとんどである。

\*延べ語数について

- ⑥ 『源氏物語』は、4類の「ものす」と5類の「ここちす」(地を漢語として扱ったので混種語としたが、「心持ち」の約とするなら4類)とで1106語となるので、これを別扱いすれば 枕：源：平：徒＝1.78：1.15：10.7：14.5となり、中古より中世の方がサ変動詞の用例が多くなるとの予想が実証されたことになる。
- ⑦ 漢語の割合は、枕：源：平：徒＝36.1：31.2：81.3：67.7となり、ここでも、中世になると「漢語＋す」の形が飛躍的に増加することを実証している。

### 3 四作品に共通して用いられているサ変動詞

次に、四作品それぞれの組み合わせ対して、共通して用いられているサ変動詞を「表Ⅲ」にまとめてみた。以下にこの表から判明することを簡条書きにする。

表Ⅲ、四作品それぞれに共通のサ変動詞

作 品	共通のサ変動詞 ( )内は左記作品順の用例数
枕・源・平・徒 〔14〕	うちす(8・15・2・1)、感ず(1・1・17・5)、興ず(4・4・1・6)、心地す(32・491・27・10)、心す(1・25・1・3)、具す(4・24・67・4)、御覧ず(28・181・53・4)、辞す(1・2・14・2)、奏す(14・55・28・1)、対面す(1・52・8・1)、尽きす(1・4・21・2)、用意す(7・14・6・1)、物語す(9・25・10・7)、論ず(1・1・3・2)
枕・源・平 〔11〕	加持す(1・8・2)、供養す(2・14・6)、啓す(24・14・1)、恋す(1・2)、声す(2・4・14)、誦す(13・11・1)、制す(9・12・6)、釣す(1・2・1)、念ず(6・49・2)、拝す(3・3・9)、物詣です(1・1・2)
枕・源・徒 〔7〕	案内す(2・7・2)、困ず(4・3・1)、心劣りす(2・5・4)、心遣ひす(3・46・3)、心動悸す(1・8・1)、調ず(3・15・1)、物す(4・525・3)
源・平・徒〔2〕	死す(1・2・2)、信ず(5・7・3)
枕・平・徒〔2〕	観ず(1・3・2)、念仏す(1・12・4)
枕・源 〔15〕	打誦す(3・22)、思倦ず(1・2)、思屈ず(1・8)、屈ず(1・6)、化粧ず(4・7)、気配す(1・20)、心焦られす(1・6)、御覧じ比ぶ(1・4)、御覧じ付く(1・12)、装束す(2・5)、修理す(1・2)、誦(ズン)ず(1・2)、舞踏す(2・4)、物怨じ(1・4)、怨ず(2・13)
源・平 〔20〕	打具す(4・3)、老す(1・1)、加階す(2・2)、行道す(1・1)、朽ちす(2・2)、御覧じ入る(12・1)、御覧じ置く(1・1)、御覧じ送る(1・3)、御覧じ慣る(3・1)、逍遙す(1・1)、旅寝す(6・1)、(御)宿直す(2・1)、ともしれば(15・1)、何しに(6・2)、難ず(1・1)、引具す(3・10)、卑下す(12・1)、秘す(3・2)、稍もすれば(2・2)、領ず(9・1)
平・徒 〔32〕	愛す(5・8)、過ちす(3・2)、案ず(9・2)、安置す(1・2)、学す(2・1)、感じ合ふ(2・2)、甘心す(1・1)、禁獄す(6・1)、決す(3・1)、伺候す(4・1)、請ず(5・2)、修行す(3・1)、修す(9・7)、出家す(22・1)、出仕す(3・2)、乗ず(1・1)、修理す(5・1)、損ず(4・3)、存ず(53・1)、長ず(4・2)、住す(4・5)、罪す(4・1)、同宿す(1・1)、放言す(1・1)、僻事す(3・2)、伏す(2・1)、扶持す(2・1)、変ず(6・2)、召具す(26・1)、由す(1・3)、連歌す(1・4)、往生す(1・1)
源・徒〔5〕	朝寝す(1・1)、講ず(4・1)、経営す(1・1)、御覧じ知る(14・1)、御覧じ咎む(2・1)
枕・平〔6〕	下向す(1・1)、参ず(1・9)、称す(1・4)、進退す(1・2)、震動す(1・1)、圍繞す(1・3)
枕・徒〔3〕	御覧じ合はす(1・1)、御覧じ出す(1・1)、聴聞す(1・1)

- ① 四作品に共通して出てくる14語については、「基礎語」と認定してよいかと思われる。内訳は、漢語9、和語4、混種語1である。

日本語の語彙を論ずるとき、使用頻度の高い基礎語は殆どが和語であることを思うと、「漢語9」という数値からサ変動詞の特徴が分かるような気がする。

- ② 三作品共通では、枕・源・平が11(漢7:和4)、枕・源・徒が7(漢3:和4)で、他の組み合わせの共通語も(漢4:和0)で、漢語が多い(計では14:8)。

- ③ 二作品共通では、平・徒が32(漢28:和3:混1)で最も多く、中世になってサ変動詞が多く造られ用いられたことが証明された。次は、源・平が20(漢11・和7・混2)で、これは物語文学という共通要素ゆえかとも思うが、何よりも和語7が特徴的である。源平については次節で述べる。

枕・源の15(漢9:和2:混4)は中古語の代表的語が並んでいる。

他の三つの組み合わせ計14の内訳は、(漢13:和1:混0)である。

#### 4 『源氏物語』『平家物語』に共通のサ変動詞

中古から中世への語彙変化を知る手懸かりとして、サ変動詞を採り上げたわけであるが、論をより具体的にするために中古から『源氏物語』を、中世から『平家物語』を採り上げて比較考察を進める。稿末に掲げた「表Ⅳ」は、『源氏物語』『平家物語』のいずれか又は両方に用いられている複合サ変動詞の一覧である。すなわち、二つの物語に出てくる複合サ変動詞をすべて拾い、表Ⅱの類別順に1から6へとそれぞれ五十音順に並べた。源氏・平家それぞれの欄に用例数を入れた。空欄の箇所は用例0であることを示す。

表Ⅳは、7ページにもわたっており煩瑣な気がしないでもないが、これこそ生の資料であり、様々な利用が可能であるとの考えからあえて掲

(注4)



載した。

表Ⅳから判明することを次に挙げる。

- ① 類別では、1類153、2類361、3類8、4類197、5類60、6類5（異なり語）となっており、やはり2字の漢語に「す」の付いた語形が最も多い。漢語全体では522（66.5%）で、4類和語198（25.2%）の2.6倍以上となっており、漢語の造語力の強さを物語っている。

- ②『源氏物語』『平家物語』に共通するものを多い順に並べると、ベスト25は以下のようになる。<sup>(注5)</sup>

1) 心地す518 (491.27)、2) 御覧す234 (181.53)、3) 尽きす93 (72.21)、4) 具す91 (24.67)、5) 奏す83 (55.28)、6) 対面す80 (72.8)、7) 念す51 (49.2)、8) (御) 物語す35 (25.10)、9) 心す26 (25.1)、10) 出家す24 (2.22)、10) 領す24 (23.1)、12) 供養す20 (14.6)、12) 用意す20 (14.6)、14) 感す18 (1.17)、14) 声す18 (14.4)、16) 制す18 (12.6)、17) うちす17 (15.2)、18) 辞す16 (2.14)、18) ともしれば16 (15.1)、20) 啓す15 (14.1)、21) 御覧じ入る13 (12.1)、21) 卑下す13 (12.1)、21) 引き具す13 (3.10)、24) 信す12 (5.7)、24) 拝す12 (3.9)。

内訳は、漢語＝17、和語＝5、混種語＝2、連語＝1となっており、ここでも漢語の造語力の強さを知る。しかし、混種語が1、連語が1、下位ではあるがベスト25入りしていることは、注目に値する。（「心地す」は5類に入れたが分類上問題があることは前述の通りである。）

- ③『源氏物語』にのみ用いられていて『平家物語』に1例も見出し得ない語を、5例以上の語について用例数の多い順に掲出する。但し、次のような加工を行った。すなわち、「うちずす」「うちずんず」を「うち誦す」に、「らうず」「りやうず」を「領ず」に、「くす」「くんず」を「屈す」にまとめた。

◇525＝ものす。◇46＝心遣ひす。◇32例＝うち誦す。◇20＝けはひす、対面す、怨ず。◇13＝屈す、御覧じ知る。◇12＝御覧じ付く。◇11＝

ずす(誦)、消息す。◇10=てうず(調整ノ意)。◇9=顧みす、心化粧す。◇8=愛(カナ)しうす、心ときめきす、しるべす、せむ方無し、見劣りす、◇7=案内す、化粧す、心驕りす、言忌みす、物怖じす、物忘れす。◇6=何しに、旅寝す、思ひ屈す、心焦られす、心設けす、物賞(メ)です。◇5=信ず、行ひす、心劣りす、心惑ひす、御覧じ果つ、御覧じ許す、装束す、てうず(調伏ノ意)、取り具す、らうたくす。

内訳は、1字の漢語：14、2字の漢語：15、和語：25、混種語：6、連語：1となり、漢語が優勢ではあるものの、和語もかなり多く用いられていることがわかる。ここに源氏物語ひいては中古語の特徴があると言える。

- ④ 『平家物語』にのみ用いられていて『源氏物語』に1例も見出し得ない語を、5例以上の語について用例数の多い順に掲出する。

◇53=存ず。◇34=奏聞す。◇26=召し具す。◇24=討ち死にす。◇23=僉議(センギ)す、発向す。◇22=相(アヒ)具す。◇21=守護す。◇20=帶す。◇18=追討す。◇17=号す。◇16=供奉す。◇15=下知す。◇14=いくさす、見参す。◇12=自害す、同心す、念仏す。◇11=誅す。◇10=現ず、上洛す、披露す。◇9=案ず、詠ず、参ず、修す、存知す。◇8=くみす、後悔す、物の具す。◇7=祈誓す、成就す、宿す、知行す、治す、矢合はせず。◇6=合戦す、軽んず、禁獄す、下向す、参内す、実検す、詮ずる所、達す、陳ず、同ず、(御)供す、変ず、報ず、流罪す、院参す。◇5=愛す、重んず、方人(カタウド)す、教訓す、薨ず、請ず、修理す、通夜す、牒(テツ)す、点ず、入道す、繁昌す、復す、別して、用心す、乱入す。

内訳は、1字の漢語：24、2字の漢語：32、和語：7、混種語：3で、圧倒的に漢語が優勢である。③との差が歴然としている。

ここに平家物語ひいては中世語の特徴があるといえよう。

## 5 まとめ

中古・中世文学のすべての作品を対象とした調査ではないので、決定的なことは言えないが、以上の考察からおおよその傾向として次のようなことは証明できたと思う。

- ① 複合サ変動詞は、平安時代において既にかなり多くの種類が用いられており、表現を豊かにするのに大きな役割を果たしている。
- ② 鎌倉時代に入り、複合サ変動詞はさらに新しく造語され、異なり語彙数では5%近くを占めるようになっていく。
- ③ 中古の複合サ変動詞は、「1字の漢語＋す」と「和語＋す」が比較的多く、中世になってから造語されたと思われるものは「2字の漢語＋す」の語形のものが多い。

### 注

- (1) 近藤政美、武山隆昭、近藤美佐子共編『平家物語〈高野本〉語彙用例総索引 自立語篇』(平成8年2月、勉誠社)。  
近藤政美、武山隆昭、池村奈代美、濱千代いづみ、近藤美佐子共編『平家物語〈高野本〉語彙用例総索引 付属語篇』(平成10年2月、勉誠社)
  - (2) 宮島達夫『古典対照語い表』(昭和46年9月、笠間書院)本稿では、フロッピー版に拠った。
  - (3) 複合サ変動詞の認定には、客観的基準を立てにくく、人により(その人の言語感覚により)微妙に異なるのが実状である。本稿では、複合サ変動詞の認定を次の基準によって行った。
- ① 「体言＋す」の語形を必要条件とする。  
従って、「かへりごとはせぬぞ」「流罪もせられ」のように、体言と「す」との間に助詞のあるものはサ変動詞に入れない。「かへりごとす」「流罪す」はサ変動詞と認定するので、矛盾するようであるが客観的基準をとる意図によりこのように定めた。
  - ② 体言には動詞連用形の転成名詞(居体言)を含める。従って、「島伝ひす」「金焼きす」は複合サ変動詞。
  - ③ 副詞＋「す」や、用言の連用形(連用修飾)＋「す」は、複合サ変動詞としな

(横20)

い。例：「いかがせむ」「重うして」は3語。

- ④ 「音す」「声す」のように「が」、「ひがことす」「ものめです」のように「を」を補って解する場合は、複合サ変動詞と認定せずに二語に切る立場もあるが、本稿では①の原則により一語とした。
  - ⑤ 体言に接尾語の付いたものも一語の体言とみなす。例：「悦び泣きどもす」は複合サ変動詞。
  - ⑥ サ変動詞を含む複合語は、考察の対象とした。例：「高名し極む」「興じ笑ふ」「御覧じ出す」。その場合、表Ⅱの類別は「す」の上接語（前の語）に依った。  
例：「興じ笑ふ」は1類、「御覧じ出す」は2類。
  - ⑦ 慣用句は、必ずしも上の規準によっていない。例えば、「ともすれば」「ややもすれば」を、サ変動詞を含む慣用句として認定した。
  - ⑧ 宮田和一郎氏の名著『おはす活用考』以来、サ変説が有力となっている「おはす」は今回対象から除いた。
- (4) 他の作品との計量的比較など利用法はいろいろ考えられる。この拙稿をお読み下さったお方で、表Ⅳ及び4作品の複合サ変動詞一覧表のフロッピー (FD) [桐7用とtext fileで提供] をご希望の方は、お申し出下さい。お届けします。
- (5) この中には、枕・源・平・徒4作品共通、源・平を含む3作品共通の語も含まれている。

表Ⅳ 『源氏物語』『平家物語』(に共通)の複合サ変動詞

作品	見出し	漢字	源	平	種	作品	見出し	漢字	源	平	種
1	平家 あいす	愛		5	1	61	平家 しゆくす	宿		7	1
2	平家 あんじいだす	案・出		1	1	62	平家 しゆす	修		9	1
3	平家 あんじつづく	案・続		2	1	63	平家 しゆつす	卒		1	1
4	平家 あんず	案		9	1	64	平家 しようす	称		4	1
5	平家 いうず	有		1	1	65	平家 しようす	証		2	1
6	源氏 うず	倦	1		1	66	平家 しようす	食		2	1
7	平家 えいず	詠		9	1	67	平家 しようす	処		4	1
8	源氏 えうず	要	1		1	68	源氏 しんず	信	5	7	1
9	平家 おうず	応		1	1	69	平家 しんず	進		2	1
10	平家 おくす	應		4	1	70	源氏 じす	辞	2	14	1
11	平家 かうす	幸		2	1	71	平家 じやす	謝		3	1
12	平家 かうす	号		17	1	72	平家 じゆしをはる	誦・終		1	1
13	源氏 かうず	講	4		1	73	平家 じゆす	誦		1	1
14	平家 かんじあふ	感・合		2	1	74	平家 じゆんず	准		1	1
15	平家 かんじおぼしめす	感・思		3	1	75	平家 じようず	乗		1	1
16	源氏 かんず	勘	1		1	76	平家 じよす	叙		4	1
17	源氏 かんず	感	1	17	1	77	源氏 ずす	誦	11		1
18	平家 がうす	拷		1	1	78	源氏 ずんず	誦	2		1
19	平家 がくす	学		2	1	79	平家 せいしかめ	制・兼		1	1
20	平家 きす	沸		3	1	80	平家 せいしとどむ	制・止		1	1
21	平家 きす	記		1	1	81	源氏 せいす	制	12		1
22	源氏 きようじあふ	興・合	1		1	82	平家 せいす	制		6	1
23	源氏 きようず	興	4	1	1	83	源氏 せいす	施	1		1
24	平家 きよす	挙		1	1	84	源氏 せんず	先	2		1
25	平家 ぎす	擬		2	1	85	平家 せんず	撰		2	1
26	平家 ぎす	議		1	1	86	平家 せんずるところ	詮・所		6	1
27	源氏 くす	屈	7		1	87	平家 ぜうず	詔		1	1
28	平家 くわす	和		1	1	88	平家 ぜす	是		2	1
29	平家 くわんず	観		3	1	89	源氏 そうす	奏	55	28	1
30	源氏 くんじいたし	屈・甚	4		1	90	平家 そつす	率		4	1
31	源氏 くんじいる	屈・入	1		1	91	平家 そんす	存		1	1
32	源氏 くんず	屈	6		1	92	平家 そんず	損		4	1
33	平家 くんず	薫		1	1	93	平家 ぞんず	存		53	1
34	源氏 ぐす	具	24	67	1	94	平家 たいす	対		1	1
35	源氏 けいす	啓	14		1	95	平家 たいす	対		20	1
36	平家 けいす	啓		1	1	96	平家 たつす	達		6	1
37	平家 けいす	詣		2	1	97	平家 たんず	弾		2	1
38	源氏 けうず	孝	3		1	98	平家 ちやうず	長		4	1
39	平家 けつす	決		3	1	99	平家 ちやくす	着		1	1
40	平家 けんず	兼		2	1	100	平家 ちゆうす	誅		11	1
41	平家 げんず	減		1	1	101	平家 ちよくす	勅		1	1
42	平家 げんず	現		10	1	102	平家 ちんず	陳		6	1
43	源氏 こうず	困	3		1	103	平家 ぢす	治		7	1
44	平家 こうず	薨		5	1	104	平家 ぢゆうす	住		4	1
45	平家 こくす	哭		1	1	105	平家 つうず	通		1	1
46	源氏 さうじあへず	請・敬不	1		1	106	源氏 てうず	調整/意	10		1
47	源氏 さうじいづ	請・出	1		1	107	源氏 てうず	調伏/意	5		1
48	源氏 さうじおろす	請・下	1		1	108	平家 てつす	膝		5	1
49	平家 さうす	相		2	1	109	平家 てんず	転		2	1
50	源氏 さうず	請	4		1	110	平家 てんず	点		5	1
51	平家 さつす	察		4	1	111	源氏 どうず	動	1		1
52	平家 さんじがたし	散・難		1	1	112	平家 どうず	同		6	1
53	平家 さんす	産		1	1	113	源氏 なんず	難	1	1	1
54	平家 さんず	参		9	1	114	平家 にんず	任		4	1
55	源氏 しす	死	1	2	1	115	源氏 ねんず	念	49	2	1
56	平家 しゃうじあつむ	請・集		1	1	116	源氏 はいす	拝	3	9	1
57	平家 しゃうじくだす	請・下		1	1	117	源氏 はいす	陪	1		1
58	平家 しゃうず	生		1	1	118	平家 はつす	免		1	1
59	平家 しゃうず	請		5	1	119	平家 ばうず	亡		3	1
60	平家 しゃくす	釈		1	1	120	平家 ばうず	勝		2	1

	作品	見出し	漢字	源	平	種
121	源氏	ひす	秘	3	2	1
122	平家	ひす	非		2	1
123	平家	ふくす	伏		2	1
124	平家	ふくす	復		5	1
125	源氏	ふくす	服	1	1	1
126	平家	へうす	表		2	1
127	平家	へんず	変		6	1
128	平家	べつして	別・て		5	1
129	平家	ほうじつくしがたし	報・尽難		2	1
130	平家	ほうず	報		6	1
131	平家	ほつす	欲		3	1
132	平家	ほつす	没		1	1
133	平家	ばんず	犯		1	1
134	平家	まんず	満		2	1
135	平家	めいず	銘		4	1
136	平家	めつす	滅		3	1
137	平家	めんず	減		1	1
138	平家	やくす	約		1	1
139	源氏	ようず	用	1		1
140	平家	よくす	浴		1	1
141	平家	らいす	礼		1	1
142	源氏	らうず	領	14		1
143	平家	りす	利		1	1
144	源氏	りやうず	領	9	1	1
145	平家	れうす	療		1	1
146	平家	れつす	列		4	1
147	源氏	れんず	練	2		1
148	源氏	ろうず	弄	3		1
149	源氏	ろんず	論	1	3	1
150	源氏	ゑじはつ	怨・果	1		1
151	源氏	ゑず	怨	7		1
152	源氏	ゑんじおく	怨・置	1		1
153	源氏	ゑんじはつ	怨・果	2		1
154	源氏	ゑんず	怨	13		1
155	源氏	ゑんぜられはつ	怨・果	1		1
156	平家	あいみんす	哀慇		1	2
157	源氏	あないす	案内	7		2
158	平家	あふりやうす	押領		1	2
159	平家	あんぢす	安置		1	2
160	平家	あんどす	安堵		2	2
161	源氏	あんないす	案内	2		2
162	平家	いんぜふす	引摺		2	2
163	平家	いんぞつす	引率		2	2
164	平家	えんいんす	延引		1	2
165	平家	おうごす	擁護		1	2
166	平家	かいえきす	改易		1	2
167	平家	かいしやくす	介錯		1	2
168	平家	かいまやうす	改名		2	2
169	源氏	かうじす	勘事	1		2
170	平家	かうみやうしきはむ	高名・極		1	2
171	平家	かうみやうす	高名		2	2
172	源氏	かかいす	加階	2		2
173	平家	かしやくす	呵嘖		1	2
174	源氏	かちす	加持	8		2
175	平家	かつせんす	合戦		6	2
176	平家	かんじんす	甘心		1	2
177	平家	かんたんす	感嘆		2	2
178	平家	かんだうす	勘当		1	2
179	平家	がうぶくす	降伏		1	2
180	平家	きうちす	灸治		1	2

	作品	見出し	漢字	源	平	種
181	平家	きうもんす	糾問			1 2
182	平家	きえす	帰依			2 2
183	平家	ききやうす	帰敬			1 2
184	平家	きくわんす	喜歡			1 2
185	平家	きしんす	寄進			2 2
186	平家	きせいす	祈誓			7 2
187	平家	きてうす	帰朝			1 2
188	平家	きねんす	祈念			4 2
189	平家	きふじす	給仕			1 2
190	平家	きふす	帰附			1 2
191	平家	きよぢゆうす	居住			3 2
192	平家	きよようす	許容			1 2
193	平家	きんごくす	禁獄			6 2
194	平家	ぎけいす	儀形			1 2
195	源氏	ぎやうだうす	行道		1	2
196	平家	くぎやうす	恭敬			1 2
197	平家	くつしやうす	屈請			1 2
198	源氏	くやうす	供養		14	6 2
199	平家	くれうす	救療			1 2
200	平家	くわいがふす	会合			1 2
201	平家	くわいちゆうす	懷中			1 2
202	平家	くわんいいうす	寛有			1 2
203	平家	くわんげんす	管絃			1 2
204	平家	くわんじやうす	勧請			2 2
205	平家	くわんぢやくす	還着			2 2
206	平家	くわんりやうす	管領			1 2
207	平家	くんじふす	群集			2 2
208	平家	ぐそくす	具足			2 2
209	平家	ぐぶす	供奉			16 2
210	平家	けいごす	警固			2 2
211	平家	けいひやくす	敬白			3 2
212	源氏	けいめいしあふ	經營・合		1	2
213	源氏	けいめいしありく	經營・歩		1	2
214	源氏	けいめいす	經營		1	2
215	平家	けうくんす	教訓			5 2
216	平家	けうげす	教化			2 2
217	源氏	けうさうす	喧噪		1	2
218	平家	けうやうす	孝養			2 2
219	源氏	けさうしくらす	化粧・暮		1	2
220	源氏	けさうしそふ	化粧・添		1	2
221	源氏	けさうす	化粧		7	2
222	源氏	けだいす	懈怠		3	2
223	平家	けつくわんず	関官			4 2
224	平家	けつぐわんす	結願			1 2
225	平家	けつばんす	結番			1 2
226	平家	けんがくす	兼学			1 2
227	源氏	けんぞす	見証		2	2
228	平家	けんたいす	兼帶			1 2
229	平家	けんぶつす	見物			4 2
230	平家	げかうす	下向			6 2
231	平家	げくわんす	解官			1 2
232	平家	げきんす	解散			2 2
233	平家	げちす	下知			15 2
234	平家	げらくす	下落			3 2
235	平家	げんざんす	見参			14 2
236	平家	げんぞくす	還俗			1 2
237	平家	げんぢやくす	還着			1 2
238	平家	げんぶくす	元服			3 2
239	平家	こうぎやうす	興行			1 2
240	平家	こうわいす	後悔			8 2

	作品	見出し	漢字	源	平	種
241	平家	こうじゆす	口入		1	2
242	平家	こうぶくす	興福		2	2
243	平家	こしょうす	感従		2	2
244	平家	こつじきす	乞食		1	2
245	平家	こどうす	巨動		1	2
246	平家	こんりふす	建立		1	2
247	平家	ごくじやうす	極成		1	2
248	平家	ごくぢやうす	獄定		2	2
249	源氏	ごらんじあつ	御覧・当	1		2
250	源氏	ごらんじいる	御覧・入	12	1	2
251	源氏	ごらんじう	御覧・得	2		2
252	源氏	ごらんじおく	御覧・置	1	1	2
253	源氏	ごらんじおくる	御覧・送	1	3	2
254	源氏	ごらんじおこす	御覧・遣	1		2
255	源氏	ごらんじおどろく	御覧・驚	1		2
256	源氏	ごらんじがたし	御覧・難	1		2
257	源氏	ごらんじくらぶ	御覧・比	4		2
258	源氏	ごらんじさす	御覧・止	1		2
259	源氏	ごらんじさだむ	御覧・定	1		2
260	源氏	ごらんじしらす	御覧・知	1		2
261	源氏	ごらんじしる	御覧・知	13		2
262	平家	ごらんじすぐ	御覧・過		1	2
263	源氏	ごらんじすぐす	御覧・過	4		2
264	源氏	ごらんじすてがたし	御覧・棄難	1		2
265	源氏	ごらんじつく	御覧・付	12		2
266	源氏	ごらんじとがむ	御覧・咎	2		2
267	源氏	ごらんじとどむ	御覧・留	1		2
268	源氏	ごらんじどころ	御覧・所	2		2
269	源氏	ごらんじなす	御覧・為	1		2
270	源氏	ごらんじなほす	御覧・直	1		2
271	平家	ごらんじなる	御覧・慣	3	1	2
272	源氏	ごらんじはじむ	御覧・始	1		2
273	源氏	ごらんじはつ	御覧・果	5		2
274	源氏	ごらんじはなつ	御覧・放	2		2
275	平家	ごらんじみる	御覧・見		2	2
276	源氏	ごらんじゆるす	御覧・許	5		2
277	源氏	ごらんじわく	御覧・分	2		2
278	平家	ごらんじわする	御覧・忘		2	2
279	源氏	ごらんず	御覧	181	53	2
280	平家	ごんぎやうす	勤行		1	2
281	平家	さいあいす	最愛		3	2
282	平家	さいたんす	再誕		2	2
283	平家	さいどす	濟度		2	2
284	平家	さうおうす	相応		2	2
285	源氏	さうがす	唱歌	2		2
286	平家	さうぞくす	相統		1	2
287	源氏	さうぞくす	装束	5		2
288	平家	さうちす	掃除		1	2
289	平家	さうでんしきたる	相伝・来		1	2
290	平家	さうでんす	相伝		2	2
291	平家	さうどうす	騒動		3	2
292	平家	さたしおくる	沙汰・贈	1		2
293	平家	さたしつかはす	沙汰・遣		1	2
294	平家	さたす	沙汰		1	2
295	源氏	さほふ(ども)す	作法	2		2
296	平家	さんかうす	参向		1	2
297	平家	さんぎんす	参勤		1	2
298	平家	さんくわいす	参会		2	2
299	平家	さんけいす	参詣		1	2
300	平家	さんげす	懺悔		2	2

	作品	見出し	漢字	源	平
301	平家	さんこうす	参候		4
302	平家	さんざいす	散在		1
303	源氏	さんざいす	参座	2	
304	平家	さんだいす	参内		6
305	平家	さんにふす	参入		1
306	平家	さんみす	三位		3
307	平家	さんらくす	参洛		1
308	平家	さんれつす	参列		1
309	平家	さんろうす	参觐		1
310	平家	ざいきやうす	在京		2
311	平家	ざうしんす	造進		3
312	平家	ざふこんす	雑言		1
313	平家	ざんぎす	慚愧		1
314	平家	ざんげんす	譴言		3
315	平家	ざんそうす	譏奏		2
316	平家	しうたんす	愁歎		1
317	平家	しうるいす	愁淚		1
318	平家	しきだいす	色代		2
319	平家	しきよす	死去		1
320	平家	しこうす	祇候		4
321	平家	しごくす	至極		1
322	平家	しせきす	咫尺		1
323	平家	したくす	尺度		3
324	平家	しつだす	失墮		1
325	平家	しほんす	四品		2
326	平家	しやうさんしがたし	生産・難		1
327	平家	しやうざす	上座		1
328	源氏	しやうじんす	精進	1	
329	平家	しやうへうす	上表		1
330	平家	しやうらくす	上洛		10
331	平家	しやしやうす	遮障		1
332	平家	しゆいす	思惟		1
333	平家	しゆぎやうす	修行		3
334	平家	しゆごす	守護		21
335	平家	しゆやうす	修造		2
336	平家	しゆそす	呪咀		3
337	平家	しゆつぎよす	出御		1
338	平家	しゆつけす	出家		22
339	平家	しゆつしす	出仕		3
340	平家	しゆつにふす	出入		3
341	平家	しゆりす	修理		5
342	平家	しyouえつす	承悦		1
343	平家	しyouじゆす	称讃		1
344	平家	しyouでんす	昇殿		2
345	平家	しよしやす	書写		2
346	平家	しよまうしかぬ	所望・兼		1
347	平家	しよまうす	所望		1
348	平家	しんじやうす	進上		1
349	平家	しんだいす	進退		2
350	平家	しんどうす	震動		1
351	平家	じがいのす	自害		12
352	平家	じつけんす	実検		6
353	平家	じやうじゆす	成就		7
354	平家	じゆうまんす	充滿		1
355	平家	じゆすいす	入水		1
356	平家	じゆんじゆくす	純熟		1
357	平家	じゆんれいす	巡礼		1
358	平家	じよいんす	助音		1
359	平家	じよじやうす	助成		1
360	平家	じんじよす	尋所		2

	作品	見出し	漢字	源	平	種
361	平家	すいさつす	推察		1	2
362	平家	すいさんす	推参		2	2
363	平家	すいびす	衰微		4	2
364	源氏	すけす	出家	2		2
365	源氏	すりす	修理	2		2
366	平家	ずいさす	随喜		3	2
367	平家	せいさよす	逝去		1	2
368	平家	せいじんす	成人		1	2
369	平家	せいりやくす	省略		1	2
370	源氏	せうえうす	逍遥	1	1	2
371	源氏	せうこそす	消息	11		2
372	平家	せうらんす	照覧		2	2
373	平家	せつがいす	殺害		2	2
374	源氏	せにふす	施入	1		2
375	平家	せんぎす	僉議		23	2
376	平家	せんぐす	前軀		2	2
377	平家	せんげす	宣下		2	2
378	平家	ぜつじゆす	絶入		1	2
379	平家	そうちょうす	崇重		1	2
380	平家	そうもんす	奏聞		34	2
381	源氏	そぶんす	処分	1		2
382	平家	そんがいす	損害		1	2
383	平家	そんまうす	損亡		1	2
384	平家	ぞんちす	存知		9	2
385	平家	ぞんめいす	存命		1	2
386	平家	たいけんす	帯剣		1	2
387	平家	たいさんす	退散		2	2
388	平家	たいしゆつす	退出		3	2
389	平家	たいてんす	退転		1	2
390	源氏	たいめす	対面	20		2
391	源氏	たいめんす	対面	52	8	2
392	平家	たうらいす	到来		2	2
393	平家	ちぎやうす	知行		7	2
394	平家	ちくでんす	逐電		1	2
395	平家	ちくぐす	偵遇		2	2
396	平家	ちげんす	知見		1	2
397	平家	ちちす	遅々		2	2
398	平家	ちやうぎやうす	張行		1	2
399	平家	ちやうじす	停止		2	2
400	平家	ちやうだいす	長大		1	2
401	平家	ちやうにんす	停任		1	2
402	平家	ちやくぎす	着座		2	2
403	平家	ちゆうしんす	注進		1	2
404	平家	ちゆうばつす	誅罰		3	2
405	平家	ちようでふす	重疊		2	2
406	平家	ちりうす	遲留		1	2
407	平家	ついしゆつす	退出		4	2
408	平家	ついたうす	追討		18	2
409	平家	ついふくす	追捕		4	2
410	平家	つやす	通夜		5	2
411	源氏	つぬしようす	追徒	4		2
412	平家	ていきふす	啼泣		2	2
413	平家	てうくわす	超過		4	2
414	平家	てうぶくす	調伏		3	2
415	平家	てうみす	調味		1	2
416	平家	てうれんす	調練		2	2
417	平家	てうろうす	嘲弄		1	2
418	平家	てうをつす	超越		1	2
419	平家	てつそうす	膜奏		1	2
420	源氏	てんじやうす	殿上	4		2

	作品	見出し	漢字	源	平	種
421	平家	てんそうす	伝奏		1	2
422	平家	てんだうす	顛倒		1	2
423	平家	てんどくす	転読		3	2
424	平家	でうきんす	逃散		1	2
425	平家	でんじゆす	伝受		1	2
426	平家	とうさんす	登山		4	2
427	平家	とうせいす	東征		1	2
428	平家	とうりうす	逗留		2	2
429	平家	とうりやうす	統領		1	2
430	平家	とくだつす	得脱		1	2
431	平家	どうえうす	動揺		1	2
432	平家	どうしやす	同車		1	2
433	平家	どうしんす	同心		12	2
434	平家	どうじゆくす	同宿		1	2
435	平家	どつきやうす	読経		1	2
436	平家	なうらんす	悩乱		1	2
437	平家	なふじゆす	納受		3	2
438	平家	にふじす	入寺		2	2
439	平家	にふだうす	入道		5	2
440	平家	にふぶす	入部		1	2
441	平家	ねんじゆす	念珠		1	2
442	平家	ねんぶつす	念仏		12	2
443	源氏	はいくわいす	徘徊	1		2
444	平家	はいぜんす	陪膳		2	2
445	平家	はいぼくす	敗北		1	2
446	平家	はいるす	配流		1	2
447	平家	はうごんす	放言		1	2
448	平家	はうじんす	芳心		2	2
449	平家	はそんす	破損		1	2
450	平家	はつかうす	発向		23	2
451	平家	はめつす	破滅		3	2
452	平家	はゑす	破壊		1	2
453	平家	はんじやうす	繁昌		5	2
454	平家	ひいさんす	悲酸		1	2
455	平家	ひけんす	披見		4	2
456	源氏	ひげす	卑下	12		2
457	平家	ひさうす	秘蔵		4	2
458	平家	ひやうちやうす	評定		4	2
459	平家	ひろうす	披露		10	2
460	平家	びやくちす	ビヤク地		1	2
461	平家	ふかくす	不覚		3	2
462	平家	ふくじす	服仕		1	2
463	平家	ふくようす	服膺		1	2
464	平家	ふくりふす	腹立		1	2
465	平家	ふぞくす	附属		3	2
466	平家	ふちす	扶持		2	2
467	平家	ふちんす	浮沈		1	2
468	平家	ふつきす	富貴		1	2
469	源氏	ふたうす	舞踏	4		2
470	平家	へいもんす	閉門		1	2
471	源氏	へんげす	変化	2		2
472	平家	へんじす	変事		2	2
473	平家	へんばんす	翩翻		1	2
474	平家	べつじよす	蔑如		2	2
475	平家	ほうきす	蜂起		3	2
476	平家	ほうこうす	奉公		1	2
477	平家	ほつくわんす	発願		1	2
478	平家	まめつす	磨滅		1	2
479	平家	まんぞくす	満足		1	2
480	平家	めいげんす	鳴絃		1	2



	作品	見出し	漢字	源	平	種		作品	見出し	漢字	源	平
481	平家	めいどうす	鳴動		1	2	541	平家	いままりす	今参		1
482	平家	めいわくす	迷惑		1	2	542	平家	いりどりす	入盗		1
483	平家	もつくわんす	没官		1	2	543	源氏	いりもみす	炒揉	1	
484	平家	もつしゆす	没収		2	2	544	平家	いろす	色		1
485	平家	もつたうす	没倒		1	2	545	源氏	うごきす	動	2	
486	平家	やういくす	養育		2	2	546	源氏	うしろす	後	1	
487	平家	やくそくす	約束		1	2	547	平家	うちじにす	討死		24
488	源氏	よういす	用意	14	6	2	548	平家	うちす	打	15	2
489	平家	ようじんす	用心		5	2	549	平家	うちのけす	打退		1
490	平家	よりきす	与力		1	2	550	平家	うへふしす	上臥		3
491	平家	らいかうす	来迎		3	2	551	源氏	うへみやづかへす	上宮仕	1	
492	平家	らうえいす	朗詠		2	2	552	平家	おいす	老	1	1
493	平家	らくばす	落馬		1	2	553	源氏	おくりす	送		2
494	平家	らくるいす	落涙		1	2	554	源氏	おこなひす	行		5
495	平家	らつきよす	落居		2	2	555	平家	おとす	音		1
496	平家	らんにふす	乱入		5	2	556	源氏	おもがはりす	面変		4
497	平家	りさんす	離山		2	2	557	源氏	おもがらひす	面嫌	1	
498	平家	りやうじやうす	領状		1	2	558	源氏	おもくす	重	1	
499	平家	りやくりやうす	掠領		1	2	559	平家	おもんず	重		5
500	平家	りよりやくす	陵礫		2	2	560	源氏	かいぼみす	垣間見	1	
501	平家	りよりやうす	虜領		1	2	561	源氏	かいまみす	垣間見		3
502	平家	りんゑす	輪廻		1	2	562	源氏	かうぶりす	冠		3
503	平家	るざいす	流罪		6	2	563	源氏	かががねす	鑿金		1
504	平家	るてんす	流転		1	2	564	源氏	かごとす	託言		1
505	平家	れんがす	連歌		1	2	565	源氏	かきやどりす	笠宿		1
506	平家	れんぞくす	連統		1	2	566	平家	かたうどす	方人		5
507	平家	ろうきよす	籠居		4	2	567	平家	かたをりどす	片折戸		2
508	平家	わうじやうす	往生		1	2	568	源氏	かなしうす	愛		8
509	平家	わうへんす	往反		1	2	569	源氏	かなしくす	愛		4
510	平家	みしつす	異失		1	2	570	平家	かなやきす	金焼		1
511	平家	めねうす	圍繞		3	2	571	平家	かへおとりす	替劣		1
512	平家	みんざんす	院参		6	2	572	源氏	かへりみす	顧		9
513	平家	ゑかうす	廻向		2	2	573	源氏	かほがはりす	顔変	1	
514	平家	ゑしんす	廻心		1	2	574	平家	かりす	狩		1
515	平家	ゑんけんす	遠見		2	2	575	源氏	かれす	離	1	
516	平家	ゑんまんす	円満		1	2	576	平家	かるうず	輕		2
517	平家	をんるす	遠流		3	2	577	平家	かるんず	輕		6
518	平家	いちみどうしんす	一味同心		1	3	578	源氏	きえせず	消エ・ズ	1	
519	平家	しやうにぬす	正二位		2	3	579	平家	ききにげす	聞逃		1
520	源氏	じやうざんみす	正三位	1		3	580	平家	きりぬきす	釘貫		1
521	平家	じゆいちぬす	従一位		1	3	581	源氏	くちおほひす	口覆		2
522	平家	じゆにぬす	従二位		1	3	582	平家	くちす	朽		2
523	平家	ぜんちしきす	善知識		1	3	583	平家	くまのまうです	熊野詣		2
524	平家	だいしようぐんす	大將軍		1	3	584	平家	くみす	与		8
525	平家	ふくしようぐんす	副將軍		1	3	585	源氏	けはひす	氣延		20
526	源氏	あさいす	朝寝	1		4	586	源氏	こころあやまりす	心誤		3
527	平家	あさがへりす	朝帰		1	4	587	源氏	こころいられす	心焦		6
528	平家	あさぎよめす	朝清		1	4	588	源氏	こころおごりす	心驕		7
529	源氏	あさりす	漁	2		4	589	源氏	こころおとりす	心劣		5
530	平家	あづまをりす	東折		1	4	590	源氏	こころがはりす	心変	1	5
531	平家	あひびきす	相引		1	4	591	源氏	こころす	心	25	1
532	平家	あやまちす	過		3	4	592	源氏	こころづかひす	心遣		46
533	平家	いくさす	軍・戦		14	4	593	源氏	こころときめきす	心トキメキ		8
534	源氏	いさりす	漁	3		4	594	源氏	こころまうけす	心設		6
535	平家	いたいけす	幼氣		1	4	595	源氏	こころまどひす	心惑		5
536	源氏	いでいりす	出入		2	4	596	平家	こころゆるしす	(御)心許		1
537	源氏	いでぎえす	出消		1	4	597	源氏	こころゆるびす	心緩		3
538	源氏	いでばえす	出映		2	4	598	源氏	ことあやまりす	言誤		1
539	平家	いぬじにす	犬死		1	4	599	源氏	こといみす	言忌		7
540	平家	いのりす	祈		1	4	600	源氏	ことこのみす	事好		1

	作品	見出し	漢字	源	平	種
601	平家	ことす	事		1	4
602	平家	ことづけす	言付		1	4
603	源氏	ことぶきす	寿詞	1		4
604	源氏	ことわりす	理	1		4
605	源氏	こひす	恋	1	2	4
606	源氏	こゑす	声	14	4	4
607	源氏	さかしらす	賢	1		4
608	平家	さかもりす	酒盛		1	4
609	平家	さきうちす	先討		1	4
610	源氏	さしいらへす	差答	4		4
611	平家	しにす	死		1	4
612	平家	しまつたひす	島伝		4	4
613	源氏	しるべす	導	8		4
614	平家	すまひす	住		2	4
615	源氏	そらおぼめきす	空臈メキ	1		4
616	源氏	そらおぼれす	空溺	2		4
617	源氏	そらみだれす	空乱	1		4
618	源氏	たえせず	絶エ・ズ	3		4
619	平家	たちぎきす	立聞		1	4
620	源氏	たびねす	旅寝	6	1	4
621	源氏	たびぬす	旅居	1		4
622	源氏	ちかおとりす	近劣	2		4
623	源氏	ちかまきりす	近勝	2		4
624	平家	ちごす	児		1	4
625	源氏	つきす	尽	4	21	4
626	源氏	つきせず	尽キ・ズ	68		4
627	平家	つけうたす	付歌		1	4
628	平家	つまどります	妻取		1	4
629	源氏	つまはじきす	爪弾	2		4
630	平家	つみす	罪		4	4
631	平家	つめひもす	詰紐	1		4
632	源氏	つりす	釣	2	1	4
633	平家	てがきす	手書		1	4
634	平家	てごたへす	手応	1		4
635	平家	てむかへす	手向		1	4
636	平家	とうす	通		1	4
637	平家	とのゑす	(御)宿直	2	1	4
638	源氏	とみす	富	1		4
639	平家	ともす	(御)供		6	4
640	源氏	とりす	執	1		4
641	平家	とりばかます	取袴		1	4
642	平家	なかなかほりす	仲直		2	4
643	源氏	なかやどりす	中宿	1		4
644	源氏	ながごもりす	長籠	1		4
645	平家	なががりす	長鳴		1	4
646	源氏	ながめす	眺	2		4
647	平家	なちごもりす	那智籠		1	4
648	源氏	なににしに	何・ニ	6	2	4
649	源氏	なにせむに	何・ムニ	1		4
650	源氏	なのりす	名告	2		4
651	平家	なみす	蔑		1	4
652	平家	なにげまうけす	逃設		1	4
653	平家	にはのりす	庭乗		1	4
654	平家	ぬきあしす	拔足		1	4
655	平家	ねこおろしす	猫下		1	4
656	平家	はせひきす	馳引		1	4
657	平家	はたいたす	端板		1	4
658	平家	はねづくろひす	羽繕		1	4
659	平家	はばきす	腰巾		1	4
660	源氏	はれせず	晴レ・ズ	1		4

	作品	見出し	漢字	源	平	種
661	源氏	ひえりす	日瀝		1	4
662	平家	ひがことす	餅事			2 4
663	源氏	ひがわさす	餅業		1	4
664	平家	ひきでものす	引出物			1 4
665	平家	ひきとほしす	引通			1 4
666	平家	ひじにす	干死			1 4
667	平家	ひといくさす	一戦			1 4
668	源氏	ひとえりす	人違		1	4
669	源氏	ひとたがへす	人違		1	4
670	源氏	ひとりゑみす	独笑		1	4
671	源氏	ひとわきす	人別		1	4
672	平家	ひるまきす	蛭巻			3 4
673	平家	ふかいりす	深入			3 4
674	平家	ふなぞろへす	舟揃			2 4
675	源氏	ふなです	船出		4	4
676	源氏	ふりせず	古リ・ズ		2	4
677	平家	ふるまひす	振舞			2 4
678	平家	まつたうす	全			3 4
679	平家	まねす	真似			1 4
680	源氏	みおとりす	見劣		8	4
681	源氏	みぎめす	見醜		1	4
682	平家	みぶるひす	身震			1 4
683	源氏	みまきりす	見勝		3	4
684	平家	みやづくりす	宮造			1 4
685	平家	みやぬす	宮居			2 4
686	平家	みゆきす	御幸			1 4
687	源氏	みをこころとめせず	身心トモ・ズ		1	4
688	平家	めだりがほす	目垂簾			1 4
689	源氏	ものうじす	物倦		1	4
690	源氏	ものおちす	物怖		7	4
691	平家	ものごたりす	(御)物語		25	10 4
692	源氏	ものごのみす	物好		4	4
693	源氏	ものごりす	物慥		4	4
694	源氏	ものす	物		525	4
695	源氏	ものづつみす	物慎		11	4
696	源氏	ものどがめす	物憎		1	4
697	源氏	ものにくみす	物憎		1	4
698	源氏	ものはじす	物恥		3	4
699	源氏	ものまうです	物詣		1	2 4
700	平家	ものめです	物愛			1 4
701	源氏	ものめです	物賞		6	4
702	源氏	ものわすれす	物忘		7	4
703	源氏	ものわらひす	物笑		2	4
704	平家	やあほせす	矢合			7 4
705	源氏	やまごもりす	山籠		3	4
706	平家	やまだちす	山賊			1 4
707	源氏	やまぶみす	山踏		1	4
708	源氏	ややもせば	稍モ・バ		1	4
709	源氏	ゆす	揺		2	4
710	源氏	ゆふだちす	夕立		1	4
711	源氏	ゆふばえす	夕映		2	4
712	源氏	ゆふまどひす	夕暎		1	4
713	平家	ゆまきす	湯巻			1 4
714	源氏	ようせずは	能・ズハ		2	4
715	源氏	よくせずは	能・ズハ		1	4
716	平家	よしす	由			1 4
717	平家	よなきす	夜泣			1 4
718	源氏	よひまどひす	宵感		2	4
719	平家	よろこびなきどもす	喜泣共			1 4
720	平家	よろこびなきなどす	悦泣共			3 4

	作品	見出し	漢字	源	平	種
721	平家	よろひづきす	鏖突		1	4
722	源氏	らうたうす	芳甚	2		4
723	源氏	らうたくす	芳甚	5		4
724	源氏	わすれがたくす	忘難	1		4
725	平家	あひぐす	相具		22	5
726	平家	いそんず	射損		4	5
727	平家	うすげしやうす	薄化粧		1	5
728	源氏	うちぐす	打具	4	3	5
729	源氏	うちずうず	打誦	2		5
730	源氏	うちずす	打誦	22		5
731	源氏	うちずんず	打誦	10		5
732	平家	うちそんず	打損		1	5
733	源氏	うちゑず	打怨	1		5
734	源氏	うちゑんず	打怨	1		5
735	源氏	おちこうず	怖困	1		5
736	源氏	おほしうんず	思倦	1		5
737	源氏	おほしくす	思屈	2		5
738	源氏	おほしくんず	思屈	1		5
739	源氏	おほしねんず	思念	1		5
740	源氏	おもひうず	思倦	2		5
741	源氏	おもひくす	思屈	6		5
742	源氏	おもひくんず	思屈	2		5
743	源氏	おもひこうず	思困	1		5
744	源氏	おもひねんず	思念	2		5
745	平家	かいぐす	掻具		1	5
746	平家	かきくやうず	描供養		1	5
747	平家	かきしんず	書進		2	5
748	源氏	かへさひそうす	返奏	1		5
749	平家	かへりちうす	返忠		3	5
750	平家	からめしんず	擲進		1	5
751	平家	かりしやうぞくす	狩装束		1	5
752	源氏	ききこうず	聞困	1		5
753	源氏	こころちす	心地	491	27	5
754	源氏	こころけさうしあふ	心化粧・合	1		5
755	源氏	こころけさうす	心化粧	9		5
756	源氏	さぶらひこうず	侍困	1		5
757	平家	しそんず	・損		1	5
758	平家	じやうげのしゐす	正下四位		1	5
759	平家	せいぞろへす	勢揃		1	5
760	源氏	たびごちす	旅心地	2		5
761	平家	つきそんず	付損		1	5
762	源氏	とりぐす	取具	5		5
763	平家	どしいくさす	同士戦		1	5
764	源氏	なにごちす	何心地	3		5
765	平家	はせさんず	馳参		1	5
766	平家	はばかりぞんず	憚存		2	5
767	源氏	ひきぐす	引具	3	10	5
768	源氏	ひとごちす	人心地	2		5
769	平家	ぶんどりす	分取		1	5
770	源氏	ほふしまりす	法師勝	1		5
771	平家	まうしだんず	申談		1	5
772	平家	みそんず	見損		1	5
773	平家	めしぐす	召具		26	5
774	平家	めししやうず	召請		1	5
775	平家	めししんず	召進		1	5
776	源氏	ものねんじす	物念	1		5
777	平家	もののがず	物具		8	5
778	源氏	ものゑじ	物怨	2		5
779	源氏	ものゑんじ	物怨	4		5
780	源氏	ものゑんじす	物怨	2		5

	作品	見出し	漢字	源	平
781	源氏	もらしそうす	漏奏		4
782	平家	やりそんず	遺損		1
783	源氏	わらはてんじやうす	童殿上	2	
784	平家	をりぐす	折具		1
785	平家	かくして	斯・テ		4
786	源氏	せむかたなし	方無		8
787	平家	ちゆうばつせられ	被・誅罰		1
788	平家	ともすれば	トモ・バ	15	1
789	源氏	ややもすれば	稽モ・ハ	2	2

〔凡例〕

1. 「源」は『源氏物語』、「平」は『平家物語』。  
数値は用例数。
2. 「種」は、1 = 「漢字一字の漢語＋す」、  
2 = 「漢字二字の漢語＋す」、  
3 = 「漢字三字以上の漢語＋す」、  
4 = 「和語＋す」、  
5 = 「混種語＋す」、  
6 = 連語
3. 「漢字」の項に、「(御) 物語」とあるのは、  
「ものがたりす」「おほむものがたりす」を  
含めたことを意味する。他も同様。
4. 並べ方は、「種」を最優先し昇順、次に  
「見出し」の辞書順、その次が「漢字」の項で  
辞書順。
5. 「見出し」は、総索引を尊重したので、  
「ずす」と「ずんず」(誦)、「くす」と「くつ  
す」(屈)、「すけす」と「しゅつけす」(出家  
がそれぞれ別の項となっている。

【付録】複合サ変動詞が実際の作品に表れる様子を紹介する。

①『源氏物語』〈桐壺〉より 【全集本】

いづれの御時にか、女御更衣あまたさぶらひたまひける中に、……父の大納言は亡くなりて、母北の方なむ、いにしへの人のよしあるにて、親うち具し、さしあたり世のおぼえはなやかなる御方々……いつしかと心もとながせたまひて、急ぎ参らせて御覧するに、めづらかなるちごの御容貌なり。……はじめよりおしなべての上宮仕したまふべき際にはあらざりき。……いといったう思ひわびたるを、いとどあはれと御覧じて、後涼殿にもとよりさぶらひたまふ更衣の曹司を、ほかに移させたまひて、上局に賜はす。……かかるをりにも、あるまじき恥もこそと、心づかひして、皇子をば止めたてまつりて、忍びてそ出でたまふ。限りあれば、さのみもえ止めさせたまはず、御覧じだに送らぬおぼつかなさ、言ふ方なく思ほさる。……あるかなきかに消え入りつつ、ものしたまふを、御覧するに、来し方行く末思しめされず、……かくながら、ともかくもならむを御覧じはてむ、と思しめす……皇子は、かくてもいと御覧せまほしけれど、……愛宕といふ所に、いとかめしうその作法したるに、おはし着きたる心地、……草も高くなり、野分にいとど荒れたる心地して、月影ばかりぞ、八重葎にもさはらずさし入りたる。……御しほたれがちにのみおはします」と語りて尽きせず。泣く泣く、「夜いたう更けぬれば、今宵過ぐさず、御返り奏せむ」と急ぎ参る。……心にくきかぎりの女房四五人さぶらはせたまひて、御物語せさせたまふなりけり。……あはれなりつること、忍びやかに奏す。御返り御覧すれば、「いともかしこきは、置き所もはべらず。……ころなき」などやうに乱りがはしきを、心をさめざりけるほどと、御覧じゆるすべし。いとかうしも見えじと、思ししづむれど、さらにえ忍びあへさせたまはず。御覧じはじめし年月のことさへ、かき集めよづに思しつづけられて、時の間もおぼつかかなりしを、かくても月日は経にけりと、あさましう思しめさる。（以下略）

②『平家物語』〈巻第一〉より 【高野本】

祇園精舎の鐘の声、諸行無常の響あり。……民間の愁る所を知らざりしかば、久しからずして、亡じし者ども也。……しかるを忠盛備前守たりし時、鳥羽院の御願得長寿院を造進して、三十三間の御堂を建て、一千一体の御仏をすへ奉る。……忠盛三十六にて始て昇殿す。雲の上人は是を猜み、……五節豊明の節会の夜、忠盛を闇打にせむとぞ擬せられける。……せむざるところ、身を全して君に仕といふ本文あり」とて、兼て用意をいたす。参内のはじめより、大なる鞘巻を用意して、……案のごとく五節果てにしかば、殿上人一同に申しければ、夫雄剣を帯して公宴に列し、兵杖を給て宮中を出入するは、みな是格式の礼をまもる、綸命よしある先規なり。しかるを忠盛朝臣、或は相伝の郎従と号して、布衣の兵を殿上の小庭に召し置き、或は腰の刀を横へさいて、節会の座につらなる、両条希代いまだ聞かざる狼籍也。事既に重畳せり。罪科尤のがれがたし。早く御札をけつて関宮・停任せらるべき由、おのおの訴へ申されければ、上皇大に驚おぼしめし、忠盛を召して御尋あり。陳じ申けるは……若なを其咎あるべくは彼身を召し進すべき歟……当座の恥辱をのがれんが為に刀を帯する由あらはすといへども後日の詔を存知して木刀を帯しける用意のほどこそ神妙なれ。……其子どもは諸衛の佐になる。昇殿せしに殿上のまじはりを、人嫌ふに及ばず……（清盛）大将にあらねども兵杖を給て隨身を召し具す。牛車轎車の旨旨を蒙て乗りながら宮中を出入す。（以下略）